

8月6日 @NT 祈祷会 原稿 能城一郎

タイトル： 祈りと動機

聖書箇所：ヤコブの手紙 4章 1~10節

祈りとは、何かを求め願うことです。その願いが隣人愛にかなっていない場合、それは、祈りでなく我儘なお願いとなります。その様な我儘で身勝手な求めをしてはならないと、ヤコブ書4章3節は、私たちにアラートを発しています。お祈りの前に、祈りと動機についてのお話をします。

最初に、1節~3節までを読みます。

【新改訳 2017】

ヤコブ

4:1 あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るのではありませんか。

4:2 あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。

4:3 求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです。

1節は、戦いや争いの原因を問うています。その原因は、「からだの中で戦う」欲望と明言しています。

2節は、「欲しても自分のものにならないと、人殺しをしてしまう」人物の事、「人を殺すことはしないけれども、傷つける人」も、その範囲に入るでしょう。また、「熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったり」する人、これは、口論好きな人と言えるかもしれません。クリスチャン、神の家族に加えられた人々は、隣人愛を知っていますから、隣人を傷つけたり、口論好きであることは、あり得ない事です。

そのクリスチャンも求め続けても得られない、たたき続けても道が開かない。探し続けても見つからない事はあるのです。そんな時、はっとさせられるのが「自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。」このことばです。自分は、熱心に祈り求めているだろうかと、祈りの目的に気づかされます。この祈りの目的をより分かり易くする言葉が、3節の「動機」ということばです。

1節と2節で、悪い「動機」が、争いを引き起こす出来事が描かれていました。「動機」という漢

字が日本で最初につかわれたのは、1798-1802年のオランダ語の本の翻訳で「曆象新書」の中です。次は、福沢諭吉の「西洋事情」(1866-70)です。両方とも、聖書の「動機」とは全く関係のない物理学の世界でのことです。最初に、倫理学の世界で「動機」を定義したのは、「哲学字彙」という本です(1881年)。その動機の定義は、「倫理学で、対象または目的の観念に導かれた衝動や欲望をいう。」となっています。

その後、文語訳も口語訳にも、「動機」ということばは使われず、原語に沿って「みだりに求める」(大正訳)、「悪い求め方」(口語訳)と翻訳されました<sup>1</sup>。英語では、「your motives」となっています。新改訳(1972年)は、この「動機」を利用しました、それ以来、新共同訳(1987年)でも「間違った動機で」と、また、カトリックの聖書翻訳でも、「悪い動機」このことばを利用してきました。ですから、「祈りと動機」を強く結びつけて祈りの心得を教会では語られるようになりました。

【TEV】

Jam 4:3 And when you ask, you do not receive it, because your motives are bad; you ask for things to use for your own pleasures.

メッセージの最後は、祈りの動機を正しく導かれるお方についての話を致します。

少し、早く、4節から10節を読みます。

4:4 節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友となりたいたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。

4:5-6 それとも、聖書は意味もなく語っていると思いますか。「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる」と。それで、こう言われています。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える。」

4:7 ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

4:8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪人たち、手をきよめなさい。二心の者たち、心を清めなさい。

4:9 嘆きなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。

4:10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高く上げてくださいます。

---

<sup>1</sup> 岩波訳(1996)小林稔訳 「ふさわしくないやり方で・・・」

読むだけで、お分かりになったと思います。人を傷つける人々、争い好きな人々には、聖霊様の事は、分かりません。しかし、私達は、御霊の実、-愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制、- を結ぶことの喜び、また、御霊に導かれ祈る事の喜びを良く知っています。

今日は、新改訳 2017 から、「祈りと動機」というタイトルでお話をしました。新改訳 2017 では、私たちの内にダイナミックに働く聖霊様の恵みを語るだけでなく、それ以上の恵みがある事を強調するために、ヤコブ 4 : 5-6 を大改訂しました。

「神は、私たちのうちに住まわせた御霊を、  
ねたむほどに慕っておられる。  
神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる」

その恵みを受け続けるには、10 節にある、「へりくだり」です。

今夜も御霊に満たされ、主の御前にへりくだってお祈りの時を持ってまいりましょう。

Google

哲学字彙

すべて 画像 ニュース 動画 地図 もっと見る 設定 ツール

約 105,000 件 (0.43 秒)

dl.ndl.go.jp > info:ndljp > pid

**哲学字彙 - 国立国会図書館デジタルコレクション**

書誌情報. 詳細レコード表示にする. 永続的識別子: info:ndljp/pid/994560; タイトル: 哲学字彙; 著者: 井上哲次郎, 有賀長雄 増補; 出版者: 東洋館; 出版年月日: 1884; 請求記号: H2-10; 書誌ID (国立国会図書館オンラインへのリンク) : 000001240968

工ト4E-26

版再月五年七十治明

東京大學三學部御原版

文學士 井上哲次郎 增補

增訂 哲學字彙 全

附 梵漢對照佛法語彙  
精圖音符

東洋館發兌

